別紙様式第2号

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏　　名	岡部　有美子
学　位　の　種　類	博士（学術）
学　位　記　番　号	都市博甲第2260号
学位授与年月日	2021年　12月　31日
学位授与の根拠	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学　位　論　文　題　目	Constructing alternative rural development —A practitioner’s action-oriented research
論　文　審　査　委　員	主査　横浜国立大学　教授　藤掛　洋子 横浜国立大学　教授　松本　尚之 横浜国立大学　教授　齋藤　麻人 横浜国立大学　准教授　三浦　倫平 立命館アジア太平洋大学　名誉教授　三好　皓一

論文及び審査結果の要旨

本博士論文の目的は、地方の人々の視点から、地方の人々による、地方の人々のための代替的な地方開発アプローチを概念化することであり、英語で執筆された。

reflective practitionerとして、現場の問題に対し、個別の文脈においてどのようにアクションを起こしたかについて、Clandinin(2016)のオートバイオグラフィカル・ナラティブ・インクワイアリーに基づいて記述し、Phronetic social scienceとしての事例研究を組み合わせ構成されている。論文の構成は以下の通りである。

第1章は、研究背最と目的を示した。第2章は、代替的な地方開発及び実践に重きを置いた研究方法論の先行研究をレビューし、本研究で論じるオルタナティブな点について明確にした。第3章は、reflective practitionerの概念を発展させ、フロネーシス（実践智）を重視したPhronetic social scienceと理論の実践(Praxis)を組み合わせた、Practitioner's action-oriented researchとして、実践領域への貢献と実践者のポジショナリティを議論した。第4章は、Appreciative inquiryを援用し、地方の人々による知識の創造と統合、その活用について論じた。第5章は、国家政策のローカライゼーションを通した地方における包括的な視点について分析・考察した。第6章は、エンパワメント評価を援用し、評価プロセスにおける開発成果のさらなる促進について分析・考察した。第7章は、概念的・実践的な代替的地方開発手法(D-HOPE手法）を提示し、文脈の異なる各地域における実践事例を通したこの手法の活用と発展について分析・考察した。第8章では、本研究で提示したD-HOPE手法と代替的な地方開発アプローチは、地方の人々が持つ数々の個人的・集合的な開発目標を追求する手助けになると結論付けた。また、実践者として自身の開発実践を研究する方法論では、実践智に基づき、より倫理的なアクションや自己エンパワメントを可能にすると同時に、力関係が上とされてきた研究や実践をする側と、地方の人々との立場の逆転の可能性についても示した。

審査委員より出された質問・コメントと発表者による応答を以下に示す。予備審査の際に出された問である「オルタナティブとは何か」が明確になった点等が評価された。今後の研究をどのように展開するのかという問いに対して発表者は、エンパワメント評価や政策体系とそのローカライゼーションを他の地方開発事業に組み込み、地方開発と方法論をさらに深化させると応答した。オートエスノグラフィー的な手法ではあるが、現地の人々の声の記述が若干弱いのではないかという指摘に対し、本研究で援用したreflective practitionerの方法論の最終目的は、現象をありのままにみる、ということであり、この点についてはまだ改善すべき点があることから今後の課題とすると応答した。

本博士論文は、オルタナティブな社会科学・認識論・方法論に基づき、実践者のポジショナリティの視点から地方開発の実践を研究したオリジナリティの高い研究である。地方開発においては、人々の知識の重要性や、地方における政策実施、プロセスを重視した評価の在り方など、代替的な概念が多く議論されているが、本研究では、現実の開発実践において、D-HOPE手法を用い、代替的な概念の実践プロセスを明らかにした。都市と地方に存在する格差問題に対し、D-HOPE手法は、実践性・操作性・適用性・再現性の高い概念的・実践的手法であると結論付けた。また、実践者が理論に基づいた枠組みを構築・実践し、経験を積み上げることで、reflective practitionerとして活動し得るという示唆を与えた。以上が本研究の意義である。

提出された論文に対し、iThenticateを用い、既往文献との重複の有無を確認した。専門用語や一般的な事項の定義、参考文献の表題を除いて既往文献との重複はなく、剽窃、盗用の不正行為がないことを確認した。

以上から、本論文は学術的価値や新規性を十分に含んでおり、博士(学術)の学位にふさわしいと判断された。

岡部有美子氏の学位論文公聴会を審査委員全員出席のもと令和 3 年 9 月 24 日 10 時 30 分より 12 時 00 分まで遠隔にて実施した。公聴会では、岡部氏による 40 分の発表と 30 分の質疑応答を行った。審査委員会は、同日、11 時 40 分より 12 時 00 分まで遠隔にて実施した。審議の結果、本博士論文は、オルタナティブな社会科学・認識論・方法論に基づき、実践者のポジショナリティの視点から地方開発の実践を研究したオリジナリティの高い研究であると評価された。地方開発においては、人々の知識の重要性や、地方における政策実施、プロセスを重視した評価の在り方など、代替的な概念が多く議論されているが、本研究では、現実の開発実践において、代替的な概念とその実践プロセスを D-HOPE 手法を用い明らかにした。また、都市と地方に存在する格差問題の解決に、D-HOPE 手法が有効であることを示すとともに、実践者が理論に基づいた枠組みを構築・実践し、経験を積み上げることで、reflective practitioner として活動し得る点を示した。

以上の研究成果より、博士学位論文として十分な内容であると判定した。また、質疑にも的確に応答していたこと、本論文は英語で執筆されており、英語による対外発表もあることから、博士号を授与される学力を有していると判定した。また、博士後期課程を修了するに必要な単位は取得済みであることも確認した。

・外国語（英語）の対外発表として以下を確認した。
Okabe, Yumiko (2019) "Challenging Inequalities for Rural Communities in Thailand: The Decentralized Hands-on Program Exhibition (D-HOPE) as an Alternative Rural DevelopmentApproach", *19th Science council of Asia* (Reviewed abstracts).
＊その他英語によるワーキングペーパー6 本

・査読なし論文
岡部有美子(2017)　「分散体験型見本市とコミュニティ・デザイン」、
三好皓一編『地域資源をコミュニティ・デザイン』、晃洋書房、pp.63-106。
＊その他日本語による学会報告 2 本

以上により当該学生は、地方開発の実践研究とその関連分野において博士（学術）の学位を得るにふさわしい学識を有するものと認められるため、審査委員会として最終的に合格であると判定した。

注　論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。